



3年生

思い込みや固定的な

出石中学校の「ジェンダー」



出石中学校では、市と連携し、絵本や出前講座、企業経営者の話、そして「ジェンダーかるた」作りを通して、ジェンダーギャップについて学び、性別にかかわらず誰もが自分の意思で生き方を選択し自分らしく生きられる社会について考えました。

生徒たちは、無意識の思い込みや性別による決めつけへの気付きや思いを、読札と絵札で表現したオリジナルかるたを制作しました。

かるたには、個々の気付きと未来への願いが込められています。

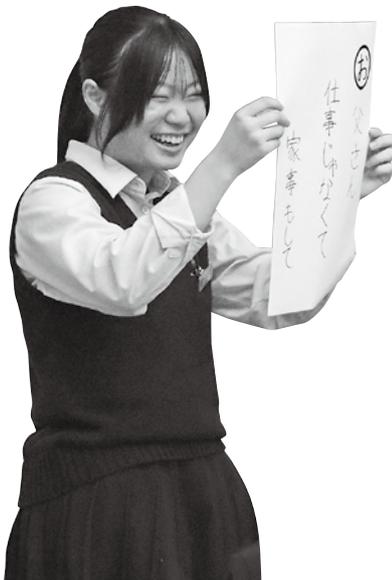


絵札：伊藤有紀さん

※読札はグループ制作



絵札：安木ひなたさん



せおしずく
瀬尾寧来さん

中学校に入って、ジェンダー平等の授業を受けるたびに自分が普段受けていたジェンダー間の差別や、自分が発してしまっていた言葉の中にある偏見や思い込みに気が付くことができました。秋原なつ子先生の話聞き、ジェンダーについて深く考えるよい機会となりました。これからもジェンダー平等を意識していくとともに社会を少しでも変えられたらと思います。

さかたれんま
坂田蓮馬さん

ワークショップでの男女共同参画すごろくとジェンダーかるた作りはとても面白く、男女の平等などの歴史を楽しく学ぶことができました。特に、かるた作りは自分で一から考えるのでジェンダーについての理解が深まりました。現在、日本はジェンダーギャップ指数が118位と先進国の中ではとても低く、これから僕たちが解決しなければならない問題だと感じました。

※本紙に掲載している情報は編集時点(2月13日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。

役割意識をこえて 「かるた」作り

《問合せ》多様性推進・ジェンダー
ギャップ対策課 ☎21-9004



▲ジェンダーギャップを分かりやすく漫画で紹介しています

2025年度の取組み紹介～生徒の学びの軌跡～

○6月 オリジナル絵本で自分を見つめる

男女共同参画週間に合わせ、市オリジナル絵本『みらいへのつばさをひろげて』を読み、自分の考えや将来への想いを言葉にしました。

○9月 地域と経営の視点から学ぶ

市政出前講座で「無意識の思い込み」を学ぶとともに、豊岡市ワークイノベーション表彰「あんしんカンパニー」の受賞企業である(株)由利の由利昇三郎社長を講師に迎え、ダイバーシティ経営の実践と、多様な他者と協働する大切さを学びました。

○11月 ワークショップと講演で学びを形に

国立女性教育会館の萩原なつ子理事長を招き、性別役割分担意識などをテーマにした「ジェンダーかるた」を制作。PTA研修委員会主催の講演会も開催し、子どもたちの未来を支える環境づくりについて考えました。



みずしまいぶき
絵札：水嶋一颯 さん

ね
寝かしつけ
母の苦勞も
知ってほしい



すいたあゆな
絵札：吹田彩由奈 さん

わ
「わ・た・し」
女の子だと
思ったよね

強く印象に残った言葉は「無意識の偏見(アンコンシャスバイアス)」です。自分では公平に接しているつもりでも、育ってきた環境や社会の価値観の影響を受け、知らず知らずのうちに思い込みを持っていることに気付かされました。家庭での役割分担や日常の声掛け、進路への期待など、何気ない言動が子どもの可能性に大きく影響することを考える機会となりました。

今回の学びを日常に生かし、まずは気付き、考え直す姿勢を大切にしていきたいと思います。子どもたちが自分らしく安心して挑戦できる環境づくりを学校と家庭が連携しながら進めていきたいと思っています。

出石中学校PTA研修委員長
おくりようすけ
小操洋介 さん



豊岡の目指す教育理念は「豊岡で育む『在りたい自分』と『在りたい未来』を創造する力」の育成です。多様性・ジェンダー学習を通し、生徒は「誰もが自分らしく生きられる社会にしたい」という願いを強め、奮闘する大人の姿に希望を見いだしました。

学びを深めたのは教師も同様です。生徒と共に新しい知識を得る「主体的に学び続けるロールモデル」となり、生徒の学ぶ意欲をより一層高めたいと考えます。

“ガラスの天井や壁”を破るたくましい生徒が、豊岡で育ち、コウノトリのように羽ばたけるよう、今後も研究と修養に努めていきます。



出石中学校教諭
いながきこうた
稲垣幸太 さん